

二〇一〇年度春季企画展

「没後50年―浅沼稻次郎とその時代」

望 月 雅 士

I 展示の趣旨と内容

二〇一〇年度春季展は、浅沼稻次郎（二八九八―一九六〇年。一九三三年政治経済学部卒）の生涯をテーマとする企画展を開催した。周知のように浅沼稻次郎は、一九六〇年一〇月、公衆の面前で右翼の一青年に刺され、亡くなった。その一部始終はテレビを通じて全国に放映され、国民に大きな衝撃を与えた。それは国論を二分した、安保改定反対闘争が終焉していくなかでの事件だった。それから五〇年、「解放」のために人生をかけた浅沼の生涯をたどるなかで、私たちの「戦後」の歩みをいま一度検証してみたいというのが、本展示を企画した趣旨である。

展示資料に関しては、衆議院憲政記念館と国立国会図書館憲政資料室の協力を得た。まず前者からは、浅沼が襲われた時に身につけていた着衣や愛用の遺品などを、後者からは戦前以来の日誌や講演草稿などを借用し、展示した。



2010年度春季企画展

-没後50年-

浅沼稻次郎とその時代

その衝撃的な死から半世紀を迎える、政治家浅沼稻次郎60年の生涯を歩んだ時代とともに追い、「人間機關車」と呼ばれた大衆政治家の実像に迫る。

2010年3月25日(木)
~4月17日(土)

会場:早稲田大学早稲田キャンパス
2号館1階 企画展示室
開館:10:00~17:00(入室は16:30まで)
休館:日曜 入場無料

早稲田大学大学史資料センター
TEL:03(5288)1814
URL:<http://www.waseda.jp/archives/>

来観者は、二一日間の会期中一七五〇名を数えた。また本企画展については『朝日新聞』夕刊二〇一〇年三月三日付で報道された。

以下の展示目録中「展示資料」は、出陳資料の一部である。なお、目録に収録した写真は割愛した。

Ⅱ 展示目録

二〇一〇年度春季企画展 ― 没後50年―浅沼稻次郎とその時代

はじめに

聴衆の面前で非業の最期を遂げた、政治家浅沼稻次郎が逝って今年で半世紀となる。第一次大戦後の新たな時代潮流の中、早稲田で社会主義思想に目覚めた浅沼は、以来四〇年、その持てる時間のすべてを貧しき人びとの解放のために捧げた。度重なる検挙で、死を覚悟したこともあった。政治によって蓄財するなど全く無縁で、亡くなるその日まで、東京下町のアパートに住みつづけた。政治家になるために早稲田に入り、まさに「早稲田精神」を体現した一生だった。よりよき社会を目指して、生涯を賭した浅沼のたたかいの日々は、現代の私たちに何を物語るだろうか。

最後に、展示の趣旨にご理解いただき、貴重な資料の出陳を快くご承諾いただいた関係各位のご厚情に、心より感謝申し上げます。

二〇一〇年三月

早稲田大学大学史資料センター

一 一九六〇年一〇月二日 日比谷公会堂

「諸君、議会政治で重大なことは警職法、新安保条約の重大な案件が選挙のさいには国民に信を問わない、そのときにはなにも主張しないで、一たび選挙で多数をとったら、政権についたら、選挙のとき公約しないことを平気で多数の力で押しつけようというところに、大きな課題があるといわなければならぬと思うのであります。（拍手・場内騒然・中断）選挙のさいは国民に評判の悪い政策は全部捨てておいて、選挙で多数を占むると

——」（浅沼稻次郎演説 『舊進 人間機関車ヌママさんの記録』）

一九六〇年一〇月二日、日比谷公会堂で三党首による立会演説会が開催された。衆議院解散のための臨時国会が一七日に召集されるのを前に、「総選挙にのぞむわが党の態度」を共通演題にした演説会だった。民主社会党の西尾末弘委員長に続き、日本社会党の浅沼稻次郎委員長が登壇した。議会政治のあり方をめぐり、政府批判を展開している最中、元大日本愛国党员山口二矢（二七歳）が壇上に駆け上がり、短刀で浅沼の腹部を刺した。浅沼はすぐに病院に運ばれたが、死亡した。

六日後の一八日、国会では池田勇人首相が追悼演説を行った。その中で池田は、ひとつの歌を紹介した。

「沼は演説百姓よ 汚れた服にポロ靴 今日の本所の公会堂 明日は京都の辻の寺」

早稲田時代からの同志で、早世した田所輝明が若き日の浅沼を詠んだ歌だった。「演説百姓」と名づけられ、六〇年を一途に生きた浅沼の人生は、どのようなものだったのだろうか。

〔展示資料〕

○遭難時着用の洋服・ワイシャツ・革靴

衆議院 憲政記念館所蔵

二 早稲田での日々

「雄弁会幹事浅沼君又『断末魔の苦しみにもがく軍閥が吾が早大にも其の勢力維持の為に侵入して来た』と述べ、且つ吾国のミリタリズムの侵略的罪悪史を詳説し、軍閥を散々攻撃して後、宣言並に左記の決議文を朗読した。

決議文 吾等は軍国主義に反対し、早稲田大学をして軍閥宣伝の具たらしむることに反対す。」（『早稲田大学新聞』一四号 一九三三年五月一六日号）

一八九八年二月二七日、浅沼稻次郎は東京府三宅島三宅村に生まれた。小学生の時に東京へ出て、一九一一年府立第三中学校（現都立両国高校）に入学、卒業後の夢は、早稲田に入って政治家になることだった。一九一八年、念願の早稲田大学高等予科に編入学した浅沼だが、父から入学を許されなかったため、仕事で生計をたてながら学生生活を送った。

浅沼は雄弁会や相撲部、ボート部に所属する一方で、デモクラシーの時代潮流の中、一九一九年、東京帝国大学の新人会に対抗して結成された民人同盟会に参加し、その後、北沢新次郎早大教授の指導の下、建設者同盟の創立に関

わった。「最も合理的なる新社会」、すなわち社会主義社会の建設がその目標であった。演説会や講演会の開催をはじめ、労働争議や農民運動の応援にと、同盟のメンバーたちとともに浅沼は活発に行動した。実践こそが、その身上だった。

そうした日々の中、一九二三年四月早大で軍事研究団結成の動きが明らかになった。五月二二日、浅沼ら雄弁部員は結成に反対する学生大会を開催したものの、軍事研究団応援団らにより破壊され、乱闘となった。暴行を受けた浅沼らは、以後この日を「流血の金曜日」と名づけた。

〔展示資料〕

○赤松克麿「備忘録」

一九一九年二月 図書館所蔵

一九一八年十二月、第一次大戦後の「人類解放の新機運」を反映して、赤松克麿らを中心に東京帝国大学に新人会が結成された。この備忘録は、翌一九一九年二月、赤松が日立争議で逮捕された麻生久や棚橋小虎らに接見した時の記録。

○『前衛』一卷二号

一九二二年二月号 図書館所蔵

早大時代の浅沼は、中学時代の友人と共同で日本橋区馬喰町に、万年筆製造販売業館沼商会を経営していた。『前衛』に載った広告には、「解剖剔抉糾弾破邪の筆劔！無産階級的万年筆の出現！ゴルフ万年筆 論戦の前にその武装を

点検せよ！」とある。

○『建設者』二巻二号

一九二三年四月号 大学史資料センター所蔵

「大正七年に帝大に新人会が出来た時、学問の独立、研究の自由を目標とする早稲田大学に、社会主義団体のないのは遺憾だと思つて僕等は：民人同盟会を組織した」（浅沼稲次郎「和田兄」）。建設者同盟は北沢新次郎の指導の下、浅沼の他、三宅正一、中村高一、稲村隆一、平野力三、田所輝明らが創立に関わり、一九二二年一〇月機関誌『建設者』を発刊した。

○早稲田大学学生軍事研究団『我等も国防へ』

一九二四年 大学史資料センター所蔵

一九二三年四月の研究団設立趣旨には、「今日の学生のあるものは学事の美名の陰に漫然時間を空費し、甚しきに至つては肉体的享樂に捉はれ：之等を深く顧たならば、学習の余暇を利用して規律ある厳正なる訓練を味ひ、一般常識として国防の何たるかを了知する此企図の意義は多言を要しない」とある。

○「権力に抗して（私の早大時代）」

『早稲田学報』一九五六年四月号（新入学生記念号） 図書館所蔵

三 無産者の解放を旨として

「昨年の市会選挙で同志にをされて深川から立ちましたが、大衆諸君の火の如き支持にも拘らず不徳の致す処、惜敗致しました。しかし失敗は成功の前提である。私は本所と深川を戦場ときめ、墓場ときめ、アパートの一室をねぐらにして深川本所の大衆と共に、失業、ガス、家賃の運動を組織して参りました。私は足尾の労働争議で一度入獄致しました。私は無産大衆のためならば、入獄も死もいけません。」（浅沼稲次郎「総選挙パンプレット」一九三〇年 国立国会図書館憲政資料室所蔵）

早大卒業後の浅沼の進路は、無産者の解放をめざす社会運動家への道だった。けれどもそれは、命がけのたたかいの日々のはじまりであった。デモがあると真っ先に飛び出し、検束された。演説をやっても、「注意、中止、検束」の連続だった。関東大震災時には不穏な「主義者」として陸軍に連行され、市ヶ谷監獄で暴行を受けた。一九二五年二月日本最初の無産政党、農民労働党が結成され、その書記長に就任するが、わずか三時間で解散させられた。「無産大衆のためならば、入獄も死もいけません」とは、浅沼の偽らざる真情だった。若き浅沼は貧しき人びとの先頭に立って、社会主義への道を驀進していった。

一九三二年、離合集散を繰り返してきた無産諸党が合同し、社会大衆党が結成された。幾度かの落選を経て、三三三年東京市会議員、三六年に衆議院議員に当選した浅沼は、敬愛する麻生久書記長の下で組織部長などの要職に就いた。だが政友・民政両党が政権から遠ざかる中、麻生が率いる社大党は党勢拡大と政権獲得の機会をねらい、政治的勢力の拡張をはかる軍部へ接近していった。日中戦争が始まるとその傾向はより強まり、四〇年近衛新体制が表明される

と、社大党は率先して解党するに至った。

〔展示資料〕

○論文「驀進する労働農民党」〔社会問題研究〕九)

一九二六年 図書館所蔵

一九二六年三月、杉山元治郎を委員長とする労働農民党が結成されたが、左派の加入をめぐり分裂。「私は労働農民党解体後日本労働党に参加し、以来日労系主流のおもむくところに従い、日本大衆党、全国労農大衆党、社会大衆党と、戦争中政党解消がなされるまで数々の政党を巡礼した」〔私の履歴書〕二、一九五七年。

○論文「プロレタリア雄弁術」〔社会科学講座〕九)

一九三一年 図書館所蔵

「雄弁の生命は、真実である。…真実を語り、自から正しければ千万人と雖も吾れ行かんと信念があつてこそ聴集を感動せしめ、火の如き雄弁が生れるのである」。

○「一九三一年闘争記録」

一九三一年 国立国会図書館憲政資料室所蔵

「△反動的議會を即時解散しろ！△軍事予算絶対反対！△反動的労働組合法小作法を粉碎しろ！△浜口内閣打倒！」。

○「雑録」

一九三八年 国立国会図書館憲政資料室所蔵

「支那事变意義 一日支提携 蔣政権の打倒 東洋平和の確立 二亞西亞民族の解放 亜西亞人の亜西亞 新世界新秩序の再建……」。

○『国家総動員と労働統制』

一九三九年 図書館所蔵

総動員審議会委員であった浅沼と社会大衆党労働部長喜入虎太郎との共著。

○大日本帝国外国旅券

一九三九年 衆議院 憲政記念館所蔵

一九三九年夏、第三五回列国議会同盟会議参列のため、浅沼はノルウェーへ旅立った。

○「第七四議会関係メモ 欧米旅行日誌」

一九三九年 国立国会図書館憲政資料室所蔵

一九三九年九月、ヨーロッパ旅行中の浅沼は第二次世界大戦の開戦に直面した。

○「総選挙演説草稿」

一九四二年四月 国立国会図書館憲政資料室所蔵

太平洋戦争開戦から五ヵ月、一九四二年四月の翼賛選挙では、浅沼は当初予定していた立候補を断念した。この選挙の演説用に準備していた草稿には、「戦争とは国家と民族の躍進の姿であります」とある。

四 革新の旗手

「わが日本の本土と沖縄においてもアメリカの軍事基地があります。しかも、これがしだいに大小の核兵器でかためられようとしているのであります。日中両国民はこの点において、アジアにおける核非武装をかちとり外国の軍事基地の撤廃をたたかいたいという共通の重大な課題をもっているわけであります。台湾は中国の一部であり、沖縄は日本の一部であります。それにもかかわらずそれぞれの本土から分離されているのはアメリカ帝国主義のためであります。アメリカ帝国主義についておたがいは共同の敵とみなしてたたかわなければなりません」と思っています。」（日本社会党第二次訪中使節団团长浅沼稻次郎講演 一九五九年三月一二日 於政治協商会議講堂『月刊 社会党』二四号 一九五九年五、六月号）

159
敗戦を焼け残った東京深川のアパートで迎えた浅沼は、一九四五年一月、日比谷公会堂での日本社会党結成大会に臨み、新たな時代へ向け出発した。翌四六年四月の総選挙で当選し、以後亡くなるまでの一四年の間、議席を守り通した。五一年社会党はサンフランシスコ平和、日米安全保障両条約批准をめぐる左右両派に分裂、浅沼は右派社

会党に属し、書記長として大衆の要請に応える実践者たるべく政治活動に明け暮れた。

吉田茂内閣による「逆コース」の政策は左右両派社会党を提携へと導き、一九五五年一〇月両派社会党は統一を果たし、鈴木茂三郎委員長の下、浅沼は書記長に就任した。翌月には保守合同により自由民主党が結成され、憲法改正を党是に掲げた。そして五七年二月、首相となった岸信介は「日米新時代」を唱えて日米関係の対等化を目指し、安保条約の改定を推進した。こうした動きに対抗し、五九年三月代表団を率いて国交のない中華人民共和国を訪問した浅沼は、北京で「アメリカ帝国主義は日中両国人民共同の敵」と演説し、大きな波紋を呼ぶことになった。

〔展示資料〕

○片山哲草稿「全党員に告ぐ」

一九四七年六月 大学史資料センター所蔵

一九四七年六月、社会党委員長片山哲を首班とする内閣が誕生した。片山は「全党員に告ぐ」で、次のように述べた。「今やわれわれは政権を掌握しました。あらゆる誘惑の魔手はわれわれの身边を圍繞し、跳躍の機会をねらって居ります」。

○論説「アメリカの国会」

『早稲田学報』一九五〇年四月号 大学史資料センター所蔵

「アメリカ議会から学ぶべき点は、それが完全な立法院となつて立法に関するイニシアを握っていることである。

…（わが国では）国会で政府を糾弾し弾劾することがうまいものがよりよき政治家といわれてきたが、唯一の立法

府となった国会は真に法律をつくる場所とならなければならぬ」。

○草稿「憲法ヨーゴ、国会自主権の確立、吉田内閣打倒、国会解散要求の為に」

一九五〇年 大学史資料センター所蔵

一九五〇年一月、国会開会の冒頭、吉田茂内閣が電力再編成問題をポツダム政令で一挙に解決したため、野党は議会政治の無視として反発した。

○座談会「大先輩縦横に語る」

『早稲田学報』一九五一年一月号 大学史資料センター所蔵

「新しい時代に処すべき早稲田精神とは何であるか」と、これはそのころの在野精神ということによってのみでは解決できない。『在野』を超越したもつと深いものを持たなければならないかと思う」。

○草稿「日本の独立と平和と党の統一保持の為に同志諸君に訴ふ」

一九五一年一〇月 国立国会図書館憲政資料室所蔵

浅沼は、講和賛成・安保反対の立場だった。国民の願いは占領政治からの脱却だが、安保条約は再軍備につながるというのが浅沼の考えだった。

○「遊説報告」

一九五二年一～三月 大学史資料センター所蔵

右派社会党書記長としての浅沼は、大会出席や遊説のために全国各地を飛びまわった。

○浅沼稻次郎書翰 統一問題研究委員会宛

一九五三年九月 大学史資料センター所蔵

網走市を遊説中の浅沼は、左派社会党網走支部より両派統一の要望を受けた。

○「北京での講演草稿」

一九五九年三月 国立国会図書館憲政資料室所蔵

○党員証

衆議院 憲政記念館所蔵

○討論資料ノート

衆議院 憲政記念館所蔵

五 委員長就任とその最期

「日米安保条約改定の本質は、第一に、破滅的戦争につながる危険性を内包しているところにある。すなわち、いったん国際的紛争が惹起した場合に、在日米軍および自衛隊の共同行動による『出動』を予定するという、危険さわまる協定を日本政府みずから取りむすぼうとしているのである。そのことを推進している最高責任者岸信介首相は、かつてその口で『鬼畜米英』をさげび、幾百万の壮丁を戦場に駆りたてた張本人にほかならない。」（浅沼稲次郎「統一をかため、たたかう党を建設しよう」『月刊社会党』三六号、一九六〇年五月号）

一九六〇年一月、アメリカの日本防衛義務を明確にした日米新安保条約が調印された。この改定は国民の中に、戦争に巻き込まれるとの不安を広げた。三月、西尾派の脱党に伴う党の再建を担い、浅沼は日本社会党中央執行委員長に就任した。早稲田で社会運動を始めてから、四〇年が経っていた。新委員長として安保改定を阻止するため、浅沼は大衆闘争の先頭に立った。

安保改定阻止を求める世論は、警官隊を導入した衆議院での条約批准の強行採決（五月二〇日）を機に高まり、ストライキやデモ、集会が各地でさかんとなった。六月一五日には全学連のデモ隊が国会へ突入し、警官隊との衝突で死者が出るに至り、アメリカ大統領の来日も中止された。だが、そうした反対闘争の昂揚も、新安保条約の自然承認と批准書の発効に伴う岸内閣の退陣声明を機に、急速に沈静していった。

七月池田勇人内閣が誕生した。池田は高度経済成長を背景に、所得倍増を中心とする新たな経済政策を打ち出した。時代の主潮はすでに、政治から経済へと移っていた。けれども浅沼は日米安保にこだわった。それが日本の外交政策

を間違った方向へ導くものになると確信していたからである。戦争への道を二度と歩んではならないというのが、自らの来し方を省みての浅沼の固い信念となっていた。そして一〇月一二日、浅沼が語ることのなかつた演説は、次の言葉で締めくくられるはずであった。

「総選挙終了後、日本の当面する最大の問題は、第一は中国との国交回復の問題であり、第二には憲法を擁護することとであります…」。

〔展示資料〕

○「日本社会党中央執行委員長に就任して」

『早稲田学報』一九六〇年六月号 図書館所蔵

「早稲田大学それは在野精神でかたまる。然し時には指導的立場に立つてもいいのではないのでしょうか？政界に早稲田時代の来るのをのぞむ。それは革新政党・日本社会党を中心として」。

○衆議院手帳

一九六〇年 衆議院 憲政記念館所蔵

臨時党大会で中央執行委員長に選出された浅沼は、東奔西走の日々を送った。

○「会議記録」

一九六〇年六～七月 国立国会図書館憲政資料室所蔵

○衆議院議員記章

衆議院 憲政記念館所蔵

○愛用の万年筆

衆議院 憲政記念館所蔵

○演説草稿

一九六〇年一〇月 衆議院 憲政記念館所蔵